

声明 悪政の限りを尽くす安倍内閣の総辞職を強く要求する！

安倍内閣の国民無視の政治には目に余るものがあります。

一つは憲法の改悪です。安倍内閣は憲法九条に自衛隊を書き込み、武力不保持の二項を死文化し戦争への道を開く改憲発議をこの秋の臨時国会に行おうとしています。来年夏に参院選と衆院選と併せて国民投票をトリプル選挙で行うとも言われています。憲法九条は、悲惨な戦争体験を通じて、再び戦争の惨禍を繰り返さないことを世界に誓った国際公約であり、このたくらみは絶対に許せません。

二つは、従来の規範を無視した強引な政治運営です。安倍内閣は二〇一五年に集団的自衛権は認めないとするそれまでの憲法解釈を強引に捻じ曲げ、戦争法に道を開きました。この強引な政治手法はそれ以後一貫して引き継がれ、森友問題では安倍首相の関与を隠す為に、政府と財務省は決裁文書の改ざんという違法行為を行い、国会と国民を一年余にわたり騙し続けるという前代未聞の事態を引き起こし、その他首相による国家犯罪である加計疑惑問題、偽装ドクターを基にした労働法制改悪、朝鮮半島の平和への動きを無視したイージス・アショアシステム導入など推し進めようとしています。

三つは、沖縄への新基地建設の強行です。沖縄は先の大戦で本土防衛の「捨て石」とされ、戦後は米軍基地の島として筆舌に尽くせない苦難を強いられてきただけに、辺野古の新基地建設は絶対に認められません。

その他、生活保護費のカットなど福祉予算の減額、朝鮮半島を巡る平和の動きに対する後退姿勢、国連で議決した核兵器禁止条約への反対、農政を破壊するTPP11のゴリ押し、原発ゼロ法案に反対し原発再稼働の推進など、国民無視の政治は枚挙にいとまがありません。

これらは全て内閣総辞職に値するものです。

私たち新日本歌人協会は一九四六年の創立以来七十二年間一貫して平和と民主主義の為に奮闘して来ました。これからも短歌創造をもって悪政を告発し、国民との共同を強めてまいります。

この伝統を受け継ぎ私たち新日本歌人協会は、悪政の限りを尽くす安倍内閣の総辞職を強く要求します。